

## 1 章 帯広市の概況

### 1 - 1 沿革

明治16年、開拓の父といわれる依田勉三が、静岡県伊豆から晩成社一行27名を率いて入植し開拓が始まり、以来50年間で、農耕地685haと牧場1580haを開き、十勝産業の原動力を築きました。明治24年になると、北海道庁による殖民区画が行われ、無人の原野に碁盤目状の「計画された市街地」が設計され、明治29年には殖民地区画の貸し付けが開始され開発は本格化し、明治35年には二級町村制により十勝で唯一の町となり、釧路や旭川までの鉄道も敷設され、産業、経済、文化等を一層飛躍させることになりました。

その後、人口も順調に増加し、昭和8年には北海道の7番目として市制が施行され、十勝平野の北方畑作農業地帯の中心都市として、道東あるいは十勝地域のサービス基地として発展してきました。昭和32年には大正村及び川西村を合併し、現在の市域が形成され人口は9万3千人を数え、以来10数年間に約4万人の増加をみせています。その間、初めて長期的なまちづくりの展望を示す総合計画を策定し、都市基盤、住環境の整備をすすめると共に、工業団地造成等の事業にも着手してきました。

こうして、十勝地域の中核都市機能、北海道における内陸拠点都市として躍進を続け、昭和53年には人口15万人を達成し、その後も新帯広空港の開港、JR石勝線の開業などの広域交通体系の整備が相次ぎ、平成8年には鉄道高架が開通し、十勝の中核都市としての重要性がますます高くなっています。

平成12年、21世紀のまちづくりの指針となる第五期総合計画を策定し、新たな時代に向けて都市と農村が共生し、活力あふれ、安心して暮らすことのできるまち、そして、個性ある文化が育まれる「新世紀を拓く田園都市おびひろの創造」を将来の都市像として、市民と協働によるまちづくりをすすめ、平成14年には開拓120年、市制70年を迎え、現在に至っています。

120年の歴史の中で、大自然の十勝平野で集落の形成から都市化への進展とともに自然が消え去っていることは、まぎれもない事実として受け止め、これからのまちづくりにおいて、失われつつある自然環境をどのような形で保全し回復するか、そして、人とどう共生していくかを市民とともに考え行動していくことが大切になります。

## 1 2 緑の経過

### (1) 緑づくりの経過

年 代	内 容
(1950年代) 昭和34年	第一期総合計画において市街地周辺にグリーンベルト的な考えが包含される
(1970年代) 昭和46年 昭和49年 昭和50年	第二期総合計画で、「帯広の森」をまちづくりの主要な施策として位置づける 帯広の森と十勝川水系緑地の事業が始まる 第1回帯広の森市民植樹祭を開催。市民約500人が参加 以後、平成14年まで、28回、14万人が参加し、22万本を植樹
昭和52年 (1980年代) 昭和57年 昭和59年	小学生で組織した「森の少年隊」が第3回帯広の森市民植樹祭に参加 帯広の森が、「緑の都市賞」建設大臣賞を受賞 その後、「緑化推進功労者内閣総理大臣賞」、「都市景観大賞」を受賞 花壇コンクールを開催、18団体が参加 平成14年には、80団体、約12,000人が参加
昭和60年 昭和61年 昭和61年	緑のまちづくり条例を制定 緑の保全と創出をはかり、潤いと安らぎのあるまちづくりを推進 緑化計画協議制度を定め工場等の施設緑化をはかる。以後、平成14年までに 655件の協議を行ない、高木を22,800本、低木を8,200本植樹 フラワー通整備事業を開催 平成14年には、52団体、3,000人が参加し、延長8,340mに サルビアを植栽
昭和62年 (1990年代) 平成3年	帯広市緑のまちづくり基本計画を策定 「緑をつくる、まもる、ふれあう」ための施策展開をはかる 第1回帯広の森市民育樹祭を開催。市民400人が参加。 以後、平成14年まで、12回、のべ9,400人が参加
平成6年 平成8年	都市緑地保全法の改正が行われ、「緑の基本計画」策定が位置づけられる 緑倍増計画を策定 都市における緑倍増の推進（計画年次 平成8年～平成17年） 慶事記念樹贈呈、ポケットパーク整備などを新たに実施
平成8年 (2000年代) 平成12年	大通公園再整備 市民意見を取り入れたワークショップによる公園事業がスタート 第五期総合計画を策定 (計画年次 平成12年～平成21年まで)
平成13年	緑の基本計画策定作業を開始 市民によるまちづくり検討委員会が組織され、計画案の策定が行われる

(2) 緑地・樹木保全の経過

年 代	内 容
(1950年代) 昭和33年	緑ヶ丘公園内にある野草園を昔の姿をそのまま残した貴重な場所として開設し、教育や自然観察の場として保全をはかる
(1970年代) 昭和49年	水光園、帯広神社、帯広農業高校を「北海道自然環境等保全条例」に基づく「環境緑地保護地区」に指定
昭和51年	大山緑地(西17条南6丁目の自然林 面積3.7ha)を都市緑地として都市計画決定
(1980年代) 昭和62年	西帯広ニュータウン緑地(西23条南4丁目の自然林 面積1.1ha)を都市緑地として都市計画決定
(1990年代) 平成2年	稲田小学校西側カシワ林(面積1.0ha)を「緑のまちづくり条例」に基づく「緑の保全地区」に指定
平成2年	稲田水源地西側のハルニシなど4本を「緑のまちづくり条例」に基づく「保存樹木」として指定。その後、平成7年に5本を新たに指定
平成4年	大成川緑地(西24条南2丁目の大成川自然林 面積1.4ha)を都市緑地として都市計画決定
平成5年	石王緑地(西18条南4丁目の自然林 2.3ha)を都市緑地として都市計画決定
平成7年	稲田緑地(稲田町西1線、基線の自然林 面積1.7ha)を都市緑地として都市計画決定
平成7年	帯広川緑地(西12条南3丁目(共栄通)~西22条南2丁目(南1線橋)の帯広川河畔林 面積42.9ha)を都市緑地として都市計画決定
平成11年	南豪緑地(東2、3条南27、28丁目の人工林 面積0.8ha)を都市緑地として都市計画決定
(2000年代) 平成15年	自由が丘緑地(西20条南6丁目の帯広の森に隣接した自然林 面積0.76ha)を帯広の森に編入

## 1 3 都市の概況

### (1) 位置と地勢

帯広市は、穏やかに傾斜する盆地状の十勝平野の中心部に位置し、東は札内川を境に幕別町、西は芽室町、南は中札内村及び更別村、北は十勝川を境に音更町に接し、市域の60%は平坦で他は日高山系の山岳地帯となっています。

市街地はおおむね平坦な地形で中央部には帯広川、郊外には十勝川、札内川が貫流し、澄み切った空気と清澄で豊富な水に恵まれ、まちの中の街路は碁盤の目で整然と区画されています。

日高地域との境である山岳地域は、札内川や支流の戸蔦別川、帯広川の源流を持ち、この分水嶺には幌尻岳、戸蔦別岳、札内岳の秀峰がそびえ豊かな大自然が形成されています。三方山に囲まれた十勝平野は、砂礫地帯の上に火山灰を厚く被った段丘の連なりを形成していましたが、長い年月の間に十勝川やその支流が段丘を侵食し、これらの流域に現在のような平野が形成されてきました。

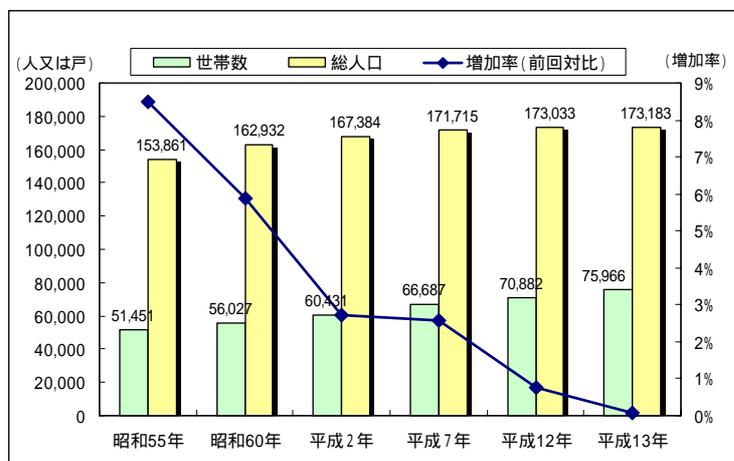


## (2) 帯広市の概況

### 人口・世帯数の推移

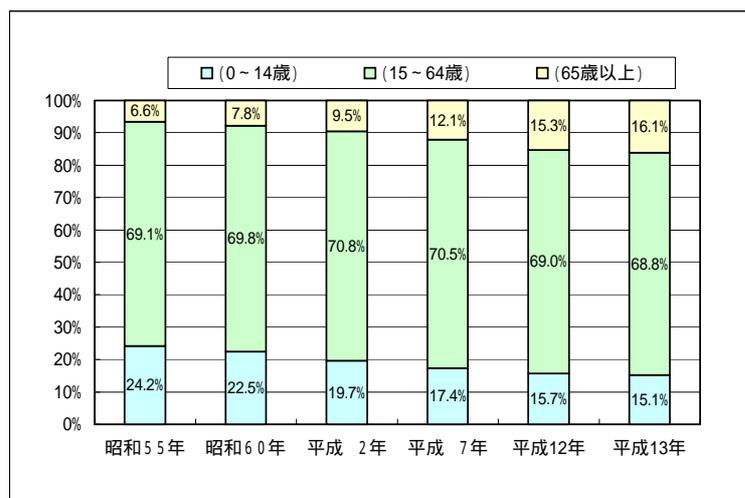
帯広市の人口は増加傾向にありますが、昭和55年の8.5%をピークに、平成13年には1.0%の増加率となっています。年齢構成を見ると、年少人口の割合は昭和55年の24.2%から平成13年の15.1%となっています。また、高齢人口の割合を見ると昭和55年の6.6%から平成13年の16.1%に推移しています。

### 総人口と世帯数の推移



国勢調査、平成13年は住民基本台帳

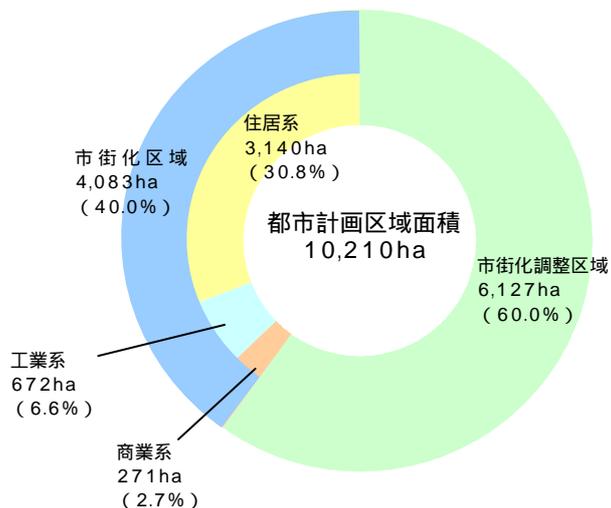
### 年齢構成の推移



国勢調査、平成13年は住民基本台帳

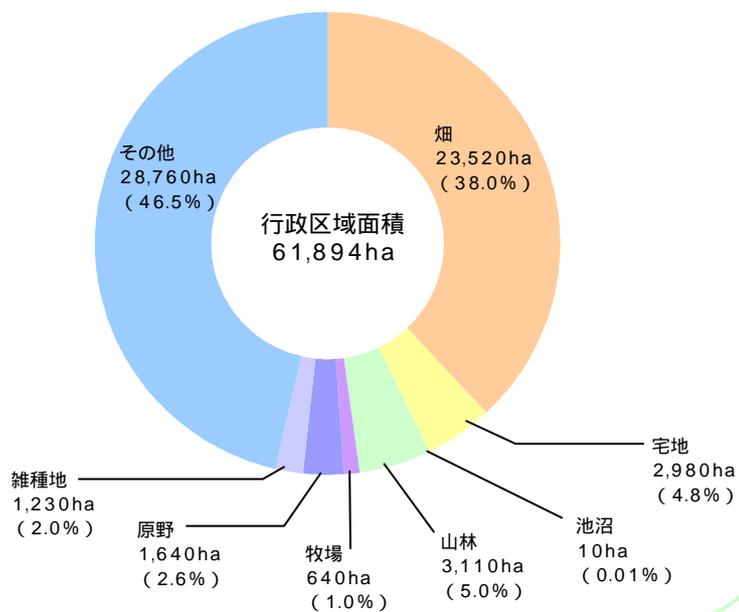
## 土地利用

### 都市計画区域における土地利用



(平成13年度末現在)

### 地目別の土地利用



資料：平成14年度固定資産概要調査（平成14年1月1日現在）

### (3) 計画地の地勢

#### 地形

計画地の地形は、大きく分けると、台地と低地に分けられます。台地は主に戸蔦別川と帯広川的作用により扇状地状に形成された、伏古台地（上帯広台地）であり、低地は、十勝川・札内川・帯広川流域に沿って形成されている十勝川低地により構成されています。

#### 地形図

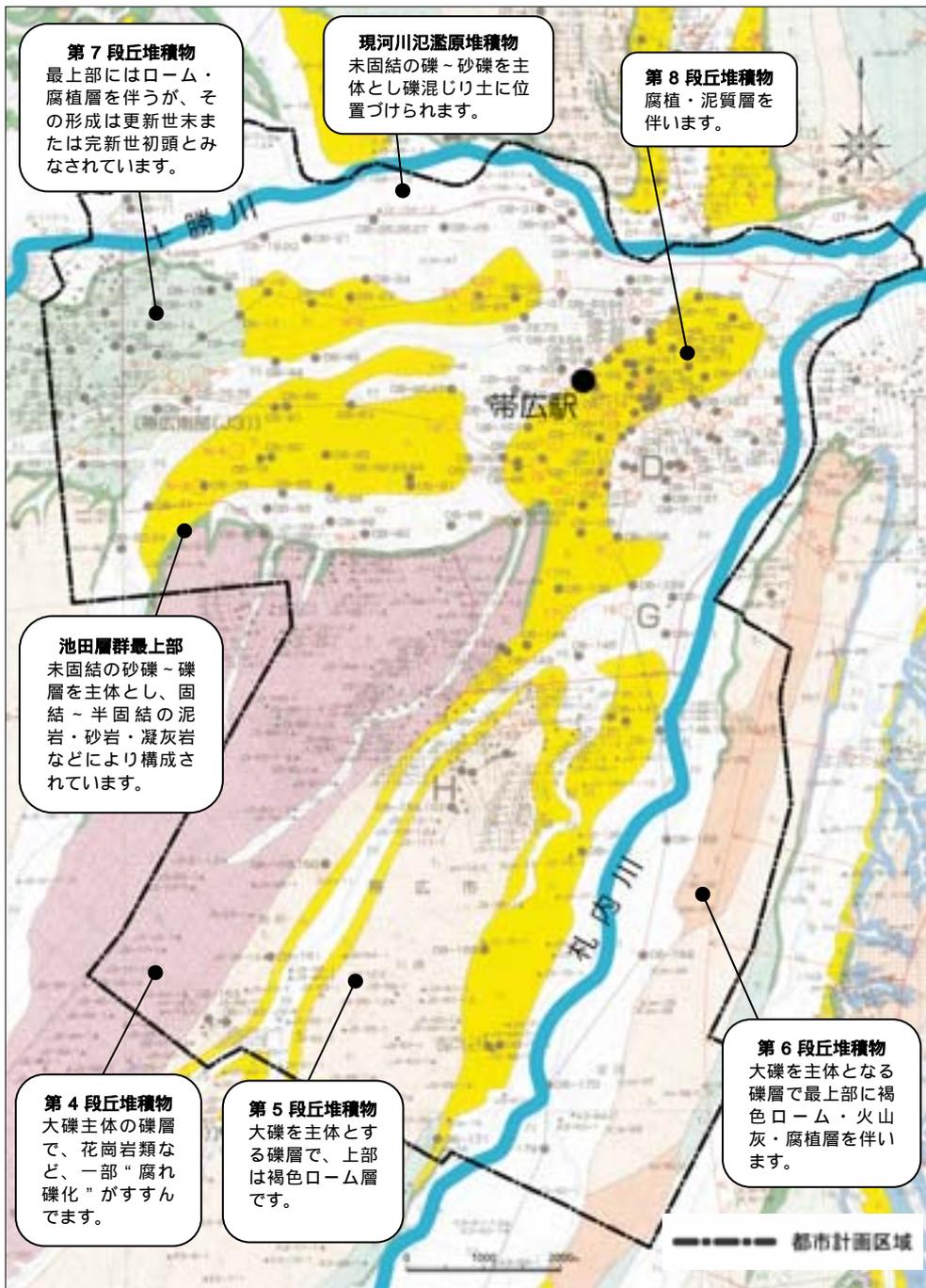


資料： 土地分類図（旧国土庁土地局監修）

## 地質

計画地の地質は、主に現河川氾濫原堆積物（礫～砂礫等）と第 8 段丘堆積物（腐食土・泥質層等）で占められており、市街地の南西部の一部に第 4 段丘堆積物（大礫・花崗岩類・褐色ローム等）が存在しています。

## 地質図

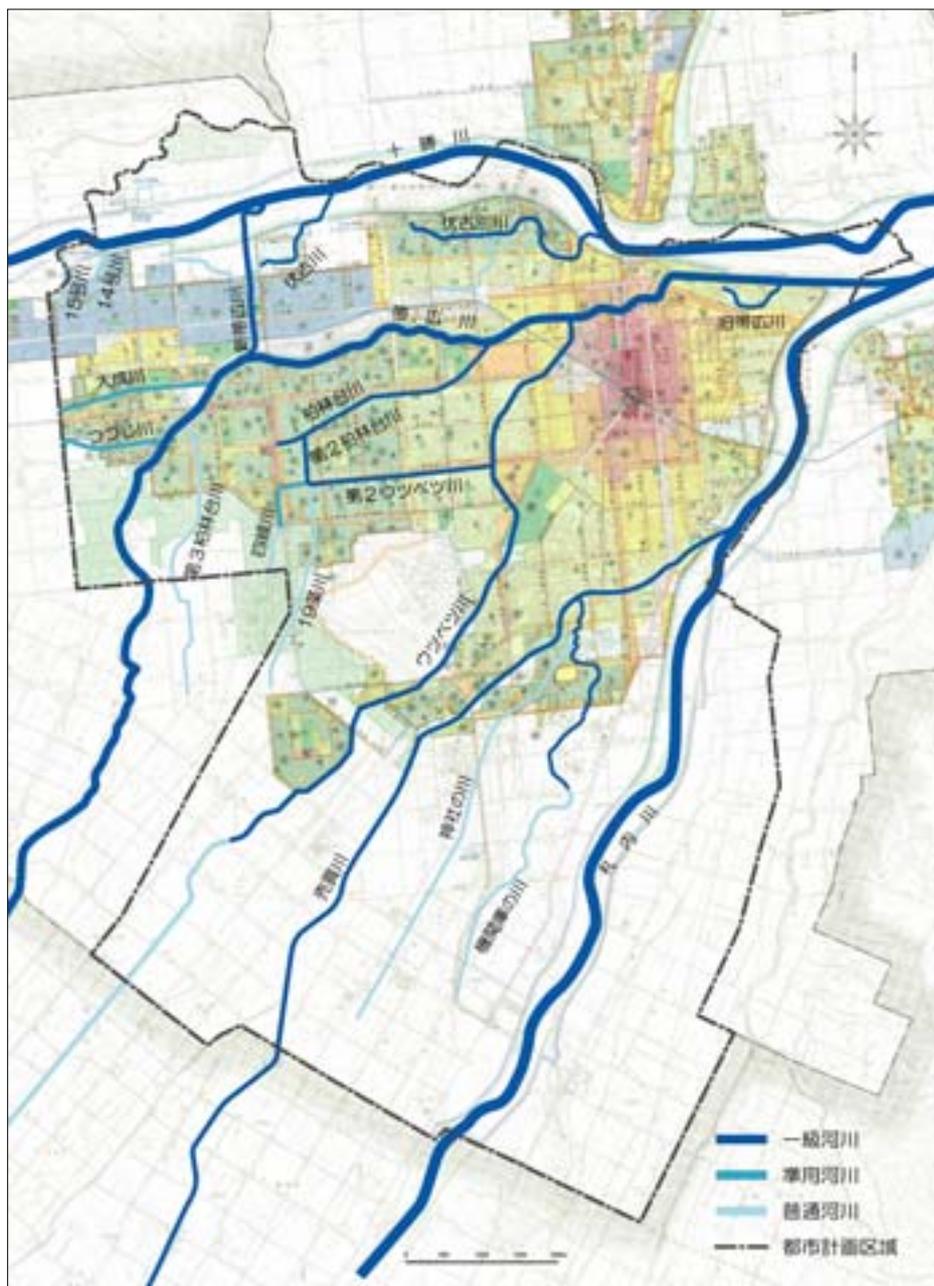


資料：十勝平野地質図 2 号（十勝支庁農業振興部発行）

#### (4) 水系

計画地の水系は、十勝川と札内川によって構成されており、帯広川や売買川などの河川が市街地内を流れ都市の骨格を形成しています。計画地内の小河川のほとんどが、日高山系からの伏流水によるものであり、これらの小河川の働きにより、帯広市の水環境は良好に維持されています。

帯広市河川現況図

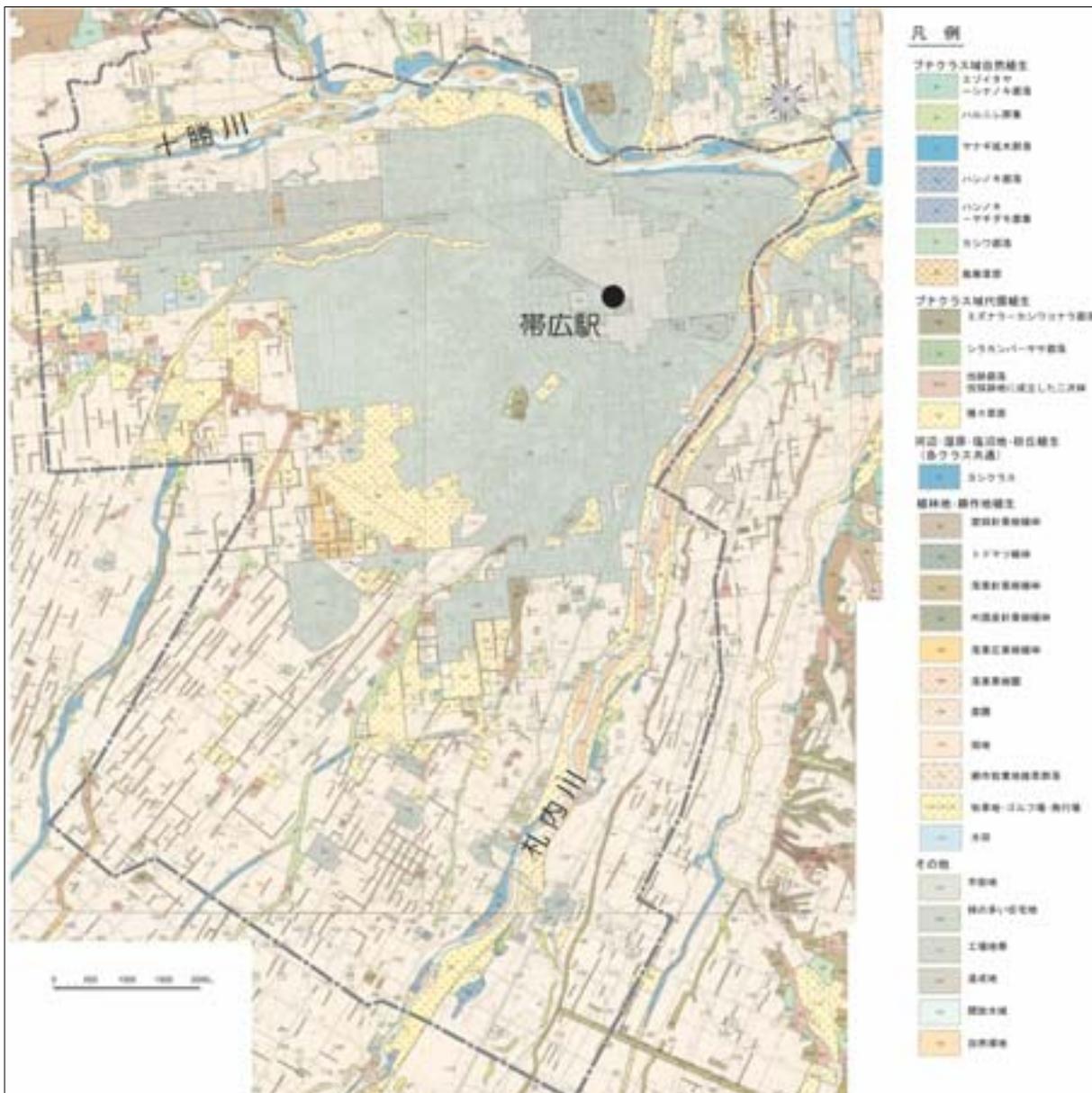


資料：1級河川,2級河川及び準用河川調査（北海道土木協会）

## (5) 植生

計画地内の植生は、土壌が乾いた火山灰土を好むカシワ林と、水辺など湿った土壌を好むハルニレ・ヤチダモ・ハンノキ林が分布しています。また、計画地近郊では、主に河川沿いにハルニレ群落やヤナギ低木群落が見られ、耕地防風林として落葉針葉樹のカラマツ植林が農村地域の中に列状に細かく分布しています。

帯広の植生図



資料：第3回自然環境保全基礎調査（環境庁）

## (6) 気象特性

本市は、寒暖の差が大きい大陸性気候で、四季の変化に富み、日照時間が長いのが大きな特徴で、道内の主要都市と比較すると、日照時間が長く降水量が少なくなっています。

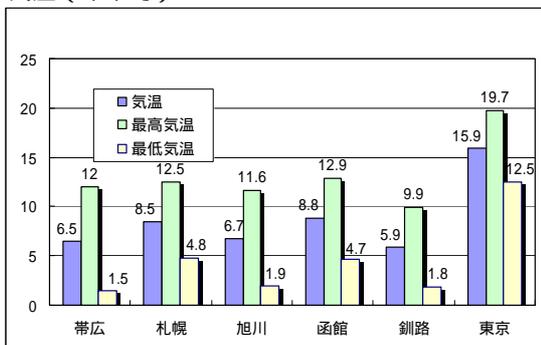
【帯広・十勝の気象模式図】



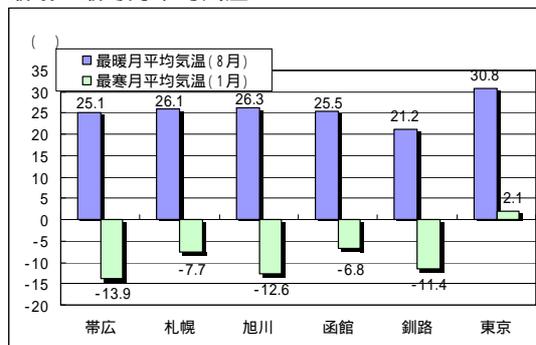
(資料：帯広の都市計画 1993)

【各都市の気象環境比較】(統計期間 1971-2000)

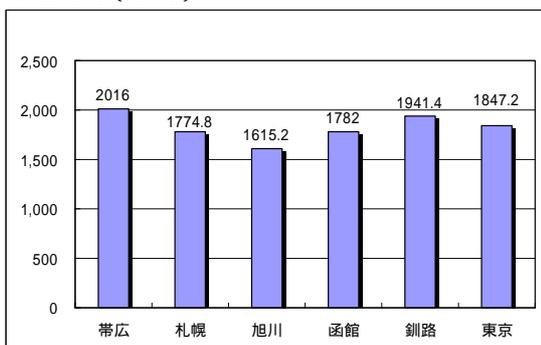
気温(年平均)



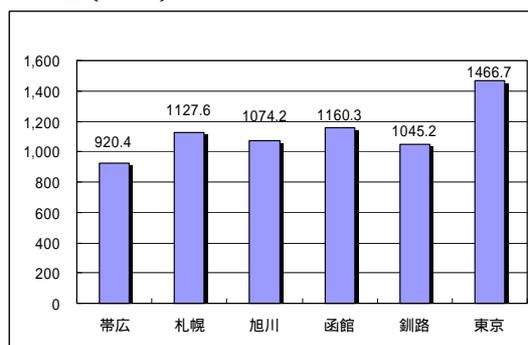
最暖・最寒月平均気温



日照時間(年間)



降水量(年間)



(資料：日本気象協会)